特集

# ともに学び、ともに暮らす

## 多文化共生のまちづくりを支える地域日本語教室

国勢調査によると、尾道市で暮らす外国人住民は、令和２年の2,718人から令和７年には3,701人となりました。国籍･地域別では、フィリピン、インドネシア、ベトナムなど、東南アジアの国々の出身者が多くを占めています。

尾道で暮らす理由はさまざまですが、外国人住民の中には、造船をはじめとする海事産業や介護などの福祉分野で働き、尾道の産業や私たちの暮らしを支えている人も多くいます。

そんな外国人住民が日本語を学び、地域の人と交流できる場として、ボランティア団体が運営する「地域日本語教室」があります。地域日本語教室は、日本語を学ぶための場であると同時に、地域の人と出会い、安心して暮らすためのつながりを育む場所でもあります。そこでは、教える人も学ぶ人も、互いに新たな発見を重ねています。







### 日本の文化を伝えて因島を好きになってもらいたい

まるごと因島日本語教室
代表　田頭康男さん

青年海外協力隊としてマレーシアで日本語を教えていた経験を持つ田頭さんは、令和７年６月、発起人の一人として因島に日本語教室を立ち上げました。

「日本語を教えるだけでなく、因島の住民と外国人が交流をできる場にしたい」と２カ月に１回ほど交流イベントを開催しています。取材当日は着付けと茶道体験が行われていました。

イベントを通して地域の人と交流し、日本の文化を知ることで、外国人住民が因島を好きになってくれたらうれしいと話します。



### 日本の文化が大好き

まるごと因島日本語教室
ヨセフィナ･ウアレナさん

教室の開設当初から通っている、インドネシア出身のウアレナさん。この日は友人２人を連れて参加しました。

「ここは日本語を学ぶだけでなく、大好きな日本の文化を体験できるのでうれしいです。今日は初めて着物を着ることができて楽しかったです。正座をしたら、足がしびれました」とイベントを楽しんでいました。







## 教室はお互いの文化を学びあう場

御調町の「みつぎ日本語クラブ」ではこの日、ミャンマー出身のウェイさんが参加し、カードを使ったゲームを通して、お互いの国の食文化について学んでいました。





みつぎ日本語クラブ
学習者　ニン・ウェイ・ウェイ・ルインさん

「ミャンマーでは、風邪をひいたときは、唐辛子入りのサラダを食べます。スープは、黒砂糖を入れた甘いものが好まれています。日本の味噌汁は少ししょっぱく感じるので、あまり食べません」

ウェイさんが話してくれたミャンマーの食文化や価値観は、お互いのことを話してみるからこそ知ることができるものです。

## 教室は新しい学びがたくさん とにかく“楽しい”



おのみち日本語教室
支援者　永田靖雄さん

おのみち日本語教室で教える永田さんは、日本語を教えることはまだ難しいと感じることが多い一方で、それ以上に「楽しい」と感じる瞬間が多いと話します。「学習者は年齢も国籍もさまざまです。日本にいながら異文化を知ることができ、ここに来て世界が広がりました。『今日はどんなことがあった？』といった会話を通して、学習者と支援者という関係にとどまらず、友達のように一緒に学ぶ関係でいたいです」

日本語教室は、日本語を教えるだけでなく、学習者と支援者が互いに学び合う場になっています。

マンツーマンでレッスンを行っている「おのみち日本語教室」には、明確な目標を持って通う学習者もいます。教室が始まると、学習者の熱意に圧倒されるほどです。

## 日本語能力試験の合格を目指して



おのみち日本語教室
学習者
高橋ジュリアさん

ブラジル出身で、尾道で暮らして25年になる高橋さん。日本人と話していると錯覚するほど流暢な日本語を話します。子育てが落ち着いたことをきっかけに、日本語を学び直したいと考え、今年５月から日本語教室に通い始めました。現在は、日本語能力試験Ｎ２の取得を目指しています。「漢字を覚えるために日記をつけて、教室で添削してもらっています」

最近は神社や寺にも興味を持ち始めたそうです。日本の歴史や文化を学びながら、試験合格を目指しています。※日本語能力試験とは、日本語を母語としない人を対象に日本語能力を測定・認定する世界最大規模の試験です。Ｎ１からＮ５の５段階のレベルに分かれていて、Ｎ１が最も難しい（日本語能力試験HPより）。

## 日本語を使った仕事を母国でしたい



おのみち日本語教室
学習者
グェン・コン・トゥエンさん

ベトナム出身のトゥエンさんは、新聞の印刷の仕事をしています。日本に来た理由を尋ねると、「ベトナムで日本語を使った仕事をしたい」と話してくれました。

現在は、日本語教室に通いながら、日本語能力試験N1の取得を目指しています。漢字の奥深さに魅力を感じており、「廣島」のような旧字体にも興味があるそうです。「仕事でくたくたなときは、教室に来るのが大変なこともあります。でも、夢に向かって勉強を続けたいです」その言葉から、学び続ける強い意志が伝わってきました。

## 「教える」という難しさ



おのみち日本語教室
支援者
溝淵尚子さん

おのみち日本語教室で、10年以上、支援者として活動している溝淵さん。教え始めた当初は、「これをやらなければいけない」と、押し付けるような指導をしてしまい、学習者が離れてしまったこともあったといいます。

良かれと思ってしていたことの何がいけなかったのか悩んでいたとき、日本語講師のための講習会に参加し、学習者の立場に立って教えることの大切さを学びました。

「学習者は、日本語のレベルも個性もさまざまです。一人ひとりの違いを理解して教えることの大切さを知りました」

「教える」ことの難しさに悩みながらも、それを乗り越えた今は、学習者との信頼関係を築きながら、活動を楽しんでいます。

### お互いの違いを尊重する

取材を通して、共通して聞かれた言葉が「楽しい」でした。インタビュー中もレッスン中も、教室には笑顔があふれていました。「ここに来ると、自然と元気をもらえます」そう話していた支援者の言葉が印象に残っています。国籍、性別、年齢、価値観、文化が違っていても、その違いを尊重し、理解しようとすること。その積み重ねが、同じ尾道に暮らす人々を結び付け、誰もが笑顔になれる尾道をつくっていくのかもしれません。



## 国際交流イベント「まち歩き＆文化体験ツアー」

外国の人と一緒に、まち歩きやお寺での茶道体験を楽しみながら交流しませんか？

**日 12月13日(日) 10:00～16:00**
**場 尾道市内（尾道市役所集合）**
定 20人
申 参加申込書をメールで
締 12月４日(金)
申 問 尾道市国際交流推進協議会
（秘書広報課内☎0848－38－9395）



▲市HP

## 日本語教室の支援者を募集しています



各教室では、外国人の日本語学習を支援するボランティアを募集しています。外国語が話せなくても大丈夫です。教室の様子も見学できます。お気軽にお問い合わせください。
問 尾道市国際交流推進協議会
（秘書広報課内
☎0848－38－9395）

## 尾道市内の日本語教室

**●「おのみち日本語教室」**
場 日比崎公民館・向島公民館
日 毎週火曜 19:00～20:30

**●「みつぎ日本語クラブ」**
場 みつぎいこい会館
日 毎週日曜 10:00～11:30

**●「まるごと因島日本語教室」**
場 三庄ふれあいセンター
日 毎週水曜 19:30～21:00